久田舜一郎と仲間達

Michel Doneda・Le Quan Ninh・Tetsu Saitoh
Japan Tour 2011 feat.久田舜一郎

ー伝統と現代ー

2011.10.12(水) 開場 18:30 開演 19:00

[会場] ○5/R Hall & Gallery 音楽ホール
ファイブアール ホール&ギャラリー
住所:名古屋市千種区今池1-3-4 TEL:052-734-3461
アクセス:地下鉄千種駅4番出口、JR千種駅改札口より徒歩2分

[料金] 一般 ¥4,500(全自由席)※消費税込 会員 ¥4,000
★トウトウ会にご入会いただける方は会員価格でお申し込みいただけます。
(ファイブアールプレイガイドのみで取り扱い)

[チケットのお取り扱い&お問い合わせ]
ファイブアールプレイガイド TEL:052-734-3461
名古屋市内各プレイガイド

[公演ホームページ]
PCから→http://www.five-r.jp/hall/view/96 ※インターネットよりお申し込みいただけます。
携帯から→http://www.five-r.jp/m/hall/view/96

重要無形文化財総合保持者「久田舜一郎」とヨーロッパ最強のインプロバイザーによる、夢のコラボレーションを5/Rで!

ヨーロッパ最先端の音を肌で体験できる最良のチャンスになります。即興音楽という範疇に留まらず、人間にとって音楽とは、音とは何か?記憶とは何?過去・現在・未来とは?人間とは?ということまで演奏者と一緒に感じ・考えることになる瞬間です。日本ですっかりお馴染みになったミッシェル・ドネダは、日々刻々、進化・深化を止めません。そして、本人もファンも待ちに待った初来日のル・カン・ニン。20歳でパリのコンセルバトワールを首席で卒業した才能。即興演奏と現代音楽を彼ほど楽々と横断しているミュージシャンはいません。二人との共演・友好を続けてきた齋藤徹が満を持して招聘に踏み切りました。さまざまなゲストを招いての日本ツアーは期待が高まるのみです。

主催・○5/R Hall & Gallery 協賛・東海高校男声合唱団OBの会「杏の会」 協力・トウトウ会(久田舜一郎名古屋後援会)
「5/R Hall & Gallery 開館1周年記念公演」

マネジメント・ミュージック・ステーション

Music Station

出演者プロフィール

久田 舜一郎（ひさだ しゅんいちろう）：大倉流小鼓

http://www.geocities.jp/syougetukai/profile.html

能楽 大倉流小鼓方　重要無形文化財総合保持者。
1944年生まれ、西宮市在住。能楽協会大阪支部所属。
大倉流十五世宗家、故大倉長十郎師に師事。
日本能楽会会員、大阪能楽養成会講師、能楽協会大阪支部常議員。
・1969年「道成寺」初演　・1986年 重要無形文化財総合指定認定
・1997年「姨捨」初演　・1998年 第五回日本伝統文化奨励賞受賞
・2007年 大阪文化芸術個人功労知事表彰受彰
国内での能楽公演の出演はもとより、ヨーロッパ・アメリカ・メキシコなどの海外公演にも数多く参加。その他「能サウンド・ミュージアムオブアートシリーズ」など、能と能囃子の普及発展をめざした多角的な視点による企画公演、プロデュースに力を注ぐ。社中会「松月会」を東京・名古屋・大阪・神戸・その他にて指導する。弟久田勘鴎は観世流シテ方、長女陽春子は大倉流小鼓方。

齋藤 徹（さいとう てつ）：コントラバス

1955年東京生まれ舞踊・演劇・美術・映像・詩・書・邦楽・雅楽・能楽・西洋クラシック音楽・現代音楽・タンゴ・ジャズ・ヨーロッパ即興・韓国の文化・アジアのシャーマニズムなど様々なジャンルと積極的に交流。ヨーロッパとアジア、日本をつなぐ「ユーラシアン・エコーズ」マレーと琉球、韓国、日本海側をつなぐ「オンバク・ヒタム」企画を続ける。上智大学非常勤講師。ヨーロッパ、アジア、南北アメリカで演奏・CD制作。音楽フェスティバルの他に、コントラバスの国際フェスティバルにも数多く参加。新たなコントラバス音楽のための作曲・演奏・ワークショップを行う。自主レーベルTravessia主宰。参加CDは50枚を超える。

Michel Doneda（ミッシェル・ドネダ）：ソプラノサックス

1954年フランス南西部生まれ。1980年よりインプロビゼーションを始める。演奏と同時にIREA（Institute Research and Exchange between arts of improvisation）の創立，フリブストの創立に関わる。多くのアーティストとの出会いの中で、独自のアプローチを開拓している。ル・カン・ニン、ドーニク・ラズロ、ベニアト・アチアリ、マーチン・アルテンバーガー、バール・フィリップス、ポール・ロジャーズ、齋藤徹、沢井一恵とレギュラーに演奏を続ける。世界中のインプロビゼーションシーンとの関わりを深め、ヨーロッパ各国の他にもアフリカ、アジア、日本、アメリカ、カナダ、南米、ロシアへツアーを行っている。参加CDは50枚を超える。

Le Quan Ninh（ル・カン・ニン）：打楽器

1961年パリ生まれ。ヴェトナム系フランス人。5歳でピアノを始め、10代で打楽器を始める。ヴェルサイユのコンセルバトワールでシルビオ・ガルダのクラスに入学。最優秀で卒業。ドーニク・ラズロ、ミッシェル・ドネダとの出会いよりインプロビゼーションの世界に入る。1986年からカルテット・エリオスの創立メンバーとしてジョン・ケージ、ジョージ・アルベギス作品を演奏・録音。1992年フリブスト（他のジャンルのインプロバイザーとの交流を目指す）の創立メンバーとなる。マーティン・アルテンバーガー（チェロ）と現代音楽作品演奏と即興演奏を行うアンサンブル・イアタスを始め、ヴィンゴ・グロボカールの作品を委嘱・初演。現代音楽、ダンス、詩、映像、写真とも共演を続け、参加CDは40枚を超える。

2つの大震災

（齋藤 徹）

私が舜一郎さんに会ったのは、阪神淡路大震災のチャリティイヴェントでした。多国籍のセッションでご一緒し、外国人奏者の反応が明らかに私と違うな、と直感しました。それを簡単に「日本」とか「血」のせいにはしたくありませんでしたが、さまざまな思いが胸に詰まってしまったように感じ、翌日、倒壊しかかったビルの部屋で行われた舜一郎さんのソロにおじゃまし、共演を願い出ました。その時の氏の「もの狂い」に、自分で知らなかった自分が激しく反応し、爪は裂け、血が飛びました。そういう演奏をした自分に驚きました。

それ以来、なぜ氏の演奏がスゴイのか、共演を通して知ろうと思い、様々な機会を持ちました。東京の小劇場の舞台では、氏の声と鼓が名うての役者の存在を吹き飛ばし、フランスの現代音楽祭で、真夜中、月に向かって吠えた氏はフェスティバルのピークを作り、居並ぶ現代音楽最前線、アフリカの民族音楽家、百戦錬磨のインプロバイザーに感嘆と驚愕を与えました。

東京の能楽堂で「道成寺」を観た時は、シテとの丁々発止の乱調子に心底、驚きました。氏は助手を二人したがえています。一人は小鼓の皮に湿り気を与え、一人には椅子をささえているのです。一瞬たりともシテから目を離さない本当の意味の「真剣勝負」でした。油断したら「死」が待っているようでした。世界の即興音楽シーンを観ている私は、この現場は、滅多にない最高レベルの即興の場であることを即座に感じました。

なぜ、これほど凄いのか？かつてこう聞いたことがあります「あんなにすばらしい演奏を支えている能の哲学は深いのでしょう？」それに対して「いやいや、私は『型』をやっているだけです。」とお答えになりました。なんとカッコイイことばでしょう。

昨年春もフランス・ドイツとご一緒しました。どんなオルタナティブな（汚い）場所でも正装に着替え、即興を遊び、高砂を謡いました。決まっていることをやっても「即興」なのです。「今」でなければ、「ここ」でなければ、「私」でなければ出来ないことをつきつめてやることは真の意味で「即興」です。

久田舜一郎氏は、さまざまなオファーに対し，その人が有名であるかとかはまったく関係なく、答えてくださいます。それは氏の尽きない好奇心と芸に対する謙虚さがなせるワザでしょう。能以外での数多い共演者の中で、今回共演させていただくミッシェル・ドネダは特別だ、とおっしゃいます。何か通じ合う特別なものがあるようです。ル・カン・ニンはジョン・ケージの禅に基づく「竜安寺」を演奏していますし、何より彼はアジア（ベトナム）の血を持っています。感性は完全なフランス人の現代音楽演奏家ですが、15年前の私のように、久田舜一郎氏の音によって、彼の知らない彼自身が目を覚ますのではないかとワクワクしています。

「テツさんやミッシェルとの共演が、実は、能の舞台でも役に立っているのですよ」とさえおっしゃいます。話半分にしても本当にありがたいコトバとして私自身の大いなる励みになっています。「伝統」とは異端と異端が結んだ線なのではないか、と思うことがあります。だからこそ大地から生まれた本物の力があるのではないでしょうか。失礼な言い方になってしまうかも知れませんが、久田舜一郎氏が今日のようなコンサートで演奏する「異端」性は、真の「伝統」の証しではないかと思います。東洋も西洋も越え、伝統も現代も越え、即興さえも越える，そんな瞬間を夢見ています。

2011年３月11日の大震災。3/11以降は，それ以前と同じではありえません。

この年に、ここ名古屋で久田舜一郎さんとミッシェル、ニン、私とのコンサートは、たいへん意義深いものだと思います。実現させてくださったみなさまに感謝を捧げます。

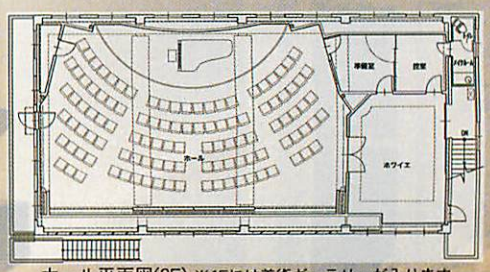
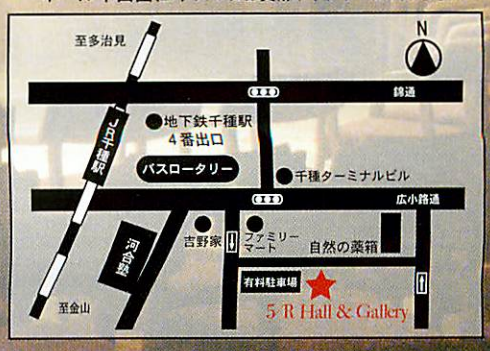
5/R Hall & Gallery
無垢な空間をアーティストのために

選ばれし111人のための贅沢な音楽空間。
コンサートホールでもなく、サロンでもライヴハウスでもない、
全く新しいアートスペースが誕生しました。
ステージと客席には段差がなく、奏者と観客が一つになる･･･。
それはフレンドリーな楽しいスタイルなのか、
それとも緊張感に溢れた真摯な時間なのか。
来場者だけが味わえる特別な"何か"が、5/R Hall&Galleryにはあります。
《アーティスト》と《オーディエンス》との
今までにない新しい関係が、ここから生まれるのです。

〒461-0850 名古屋市千種区今池1-3-4 / TEL. 052-734-3461 Fax. 052-734-3462
【Website】 http://www.five-r.jp/hall/

アクセス
【 JR 】JR千種駅改札口より徒歩２分　【 バス 】千種バスターミナルより徒歩１分
【地下鉄】地下鉄千種駅4番出口より徒歩２分 ※隣にコインパーキングPあり。

Produce & Management by *Music Station*
音楽だからできること。音楽にしかできないこと。



ホール平面図(2F) ※1Fには美術ギャラリーが入ります。